

# 蒼葉

裾野市立深良中学校だより

平成23年4月22日発行

第4号

発行人 校長 鈴木史良

## 4月25日を祝う

— 341年前のこの日に深良で何が起こったか？ —

今から345年前には、駿河の国深良村では水不足のために米も麦もろくに作れませんでした。作物といえば稗（ひえ）や粟（あわ）といった雑穀ばかり。わずかにとれる米は年貢として納めていましたので、村人たちの口には入りませんでした。日照りが続くとすぐに畑の作物が枯れ始めてしまいます。近くに黄瀬川が流れていますが、この川は水量が少ない上に、村よりも4メートル低いところを流れており、とても利用できる川ではなかったのです。

深良村の名主、大庭源之丞は村人たちの生活を少しでも向上させようと、常識では考えられないような驚くべき発想をしました。

深良村から箱根の山に登っていくと海拔845メートルの湖尻峠にでます。湖尻峠は箱根外輪山の一つで、陥没したカルデラ内に芦ノ湖が満々とした水をたたえています。芦ノ湖の湖面が海拔723メートル。この湖面高さより10メートル低い深良側の山腹に出水口を定め、山をぶち抜いて湖の水を深良村に流そうという壮大で大胆な計画です。これはものすごい発想ではありませんか。しかもそれを実行し、やり遂げてしまうと、もはや驚きをはるかに超えています。世界的にも希少な、深良の輝かしい財産です。

「4月25日」とは、寛文10年（1670年）2月に完成した用水路に初めて芦ノ湖の水が流れた記念すべき日です。この水によってどれだけ多くの人々が救われたことでしょうか。340年以上たった今でも、この水は私たちの生活を支えているのです。

どのような方法で湖面より10メートル低い地点を探し出したのだろうか？ そもそも湖面の高さはどうやって測ったのだろうか？ 長さ1280メートルのトンネルを掘りながら落差10メートルの勾配をどのようにつけていったのだろうか？ 深良側から掘り上げ、芦ノ湖側から掘り下げたトンネルの誤差がわずか1メートルしかなかったのはどんな方法を使ったからなのだろうか？

技術的な疑問ばかりでなく、どのようにして工事許可を得ることができたのか、当時の幕府が許可したのか？ 費用は誰がどのように工面したのだろうか、何かたいへ



直径6mの掘削機。ドバイ・メトロの地下軌道を掘削した。1km掘って誤差2cm。



無人運転の電車ドバイ・メトロ。地下を走行したり、高架軌道を走行したりする。

ん困難な問題がなかったのだろうか、用水の完成により人々の生活にどんな変化があったのだろうか等、疑問はあとからあとから湧き上がってきます。

そしてそれらの疑問は、その工事を発想し、遂行した人間への興味に変化していきます。これほどのことを成し遂げた人は、何を思い、どんなことを考えていた人なのだろうか？ これほどまでに強い意志をどのようにして培ったのだろうか？

昔の人だけけれども、この土地に実際に生きた人として興味は尽きません。論語に『ふるきをあたためて新しきを知る』という言葉があります。深良用水にかかわることを本校の子どもたちが徹底的に勉強していけば、何か将来を生きるための力がついてくるような気がしてなりません。



グランド脇の満開の桜

## 4月の生徒集会で

4月19日（水）に生徒集会がありました。生徒会長をはじめとする生徒会役員、専門委員長からの言葉がありました。生徒からの質問や意見に鋭い指摘もあり、感心しました。また、1年生から3年生まできちんと体育座りで、話し手の顔を見て聞いていた姿勢もすばらしかったです。



どの生徒もすばらしい姿勢

## 当たり前前の方が当たり前前ができる深中生

深良中学校の清掃は昼休み後に行われます。1年生から3年生までの縦割り清掃班で活動しています。人数の割に校舎、校地が広いので少ない人数で広い場所を清掃しています。たった一人で黙々とトイレを清掃している生徒もいました。手を抜かず、当たり前前のように清掃する姿がかっこよかったです。

「一生懸命がかっこいい！」深中生のよさを見ました。



一生懸命がかっこいい！

## インフルエンザ情報（中山先生より）

市内の小学校でインフルエンザが増加傾向にあります。現在の様子は、19日～21日まで4クラスで学級閉鎖の処置がとられました。原因はわからないとのこと。

本校でも、欠席者は少ないのですが、体調を崩して来室する生徒が増えてきています。インフルエンザは、突然上陸しますので、手洗いとうがいの指導を行っています。また、ここしばらく、念入りに朝の健康観察や給食時の手洗いについて学校で指導しますので、ご家庭でもご理解、ご支援をお願いいたします。